

■『国際公式ルール麻雀（国際麻将・中国麻将）解説』おまけ本 咲-Saki- 12巻 の郝慧宇の手を考察してみる

中国麻将のネタで何かペーパー的なものを作ろうと考えていましたが、ネタが狭いために、咲-Saki-の中国麻将の回のネタにしました。

雑誌掲載が一年以上も前になりますし、二番煎じと思いますが、おつきあいください。

目次

p.1.	表紙/目次/おことわり
p.2	12巻153～154ページ
p.3	12巻162～163ページ
p.4	12巻169ページ
p.5	12巻184～191ページ
p.7	12巻194ページ
p.8	郝慧宇の打ち方についての考察まとめ
p.8	奥付

●おことわり

- その1:麻雀を知っている人向けです。中国麻将をある程度知っているとさらに楽しめます。
- その2:漫画の中で確認できる状況(手牌、捨牌)が限定されるため、考察には予想と想像と創作を元に展開しております。
- その3:また、打ち筋や捨牌選択については、個人の感覚に基づいたものですので、一般的なものと違う可能性があります。
- その4:この冊子では、株式会社スクエア・エニックス様発行のコミック「咲-Saki- 12巻」から台詞や場面・内容を引用しております。
- その5:この冊子はコミケ終了後に、ホームページ等で公開予定です。

以上、ご了承下さい。

●12巻153～154ページ

まずは、最初の上がりから。手は以下の通り。ドラは4索。
六萬切りで、一色三歩高のツモ専に受けたところです。



- ・メイン役：一色三歩高(16点)
- ・日本麻雀での点数：500点-300点(子の門前自摸和のみ、30符1翻)
- ・中国麻将での点数(基本点)：23点(不求人、坎張、平和、一色三歩高)

中国麻将でもかなり高い点数です。
なお、今回の郝の上がりですもアガリできたのはこの1回だけ。

中国麻將的に捨牌を見ると、7索切りと三萬切りの順番が気になります。

たとえば、数順前がこんな手牌 だった予想すれば、
三色三歩高 (筒子567-萬子678-索子789)

花龍 (萬子123-筒子678-索子789)
といった手役も見え手いたはずですが。

もちろん、三萬がツモ切りなら、手替えをしてないというだけですが、ここでは手出しだと考
えてみます。

和了した一色三歩高および上記の中国麻將役を含んだ手牌では、いずれにも三萬は1枚
しか使用しません。しかし最後まで三萬を余分に持っていました。

その前に切った7索は、三色三歩高や花龍の必須牌になるため、7索より三萬の方を先に
切る方が普通かなと思っています。

7索の重なりも想定し、断幺十一色三歩高に変化すれば出上がり可能になりますし。

ただし、ツモ切りか手出しかなどが判らない以上、予想でしかありません。

その他の部分は捨牌を見るかぎり、中国麻將でも日本麻將でも、同じように進めるだろ
うという印象でしたねえ。最後の三萬切り以外。

いずれにしろ、ここで三萬を切ることで、日本麻將の役あり聴牌と役無し聴牌(中国麻將で
は役あり)を見せることにより、郝が手役や点数よりも中国麻將を意識した打ち方をしている
というところを見せたかったのでしょうか。

●12巻162～163ページ

上がり手は、以下の通り。下家の染谷まこからの出上がりでした。ドラは5索。
ドラ+赤牌の5索を切って中国麻将役の花龍に受けている状況です。



- ・メイン役: 花龍(8点)
- ・日本麻雀での点数: 3900点(親で一盃口ドラ1、40符2翻)
- ・中国麻将での点数(基本点): 14点(坎張、一般高、門前清、平和、花龍)

5索を切らず、1索を切ったの4索の坎張待ちでもツモアがりなら中国麻将の上がり条件の8点をクリア(坎張、一般高、平和、不求人)するのですが、当然のように中国麻将として高い役を狙っているようです。

捨牌的には、手牌と塔子以上になれる牌が8筒と三萬しかないため、ほぼ手なりで進んでいった状況のように見えます。

ただし、この三萬は三色三歩高、三色三同順といった役を考えるなら使いやすい牌。

これらの役と花龍の両天秤をするのであれば、三萬はもっておき、代わりに一盃口の部分を崩して受けを広く取るようにしたのではないかなと考えます。



もしかすると、かなり早い段階で花龍に絞れるような牌姿だったのかも知れません。
しかし、そう考えると今度は聴牌まで5索を持っているのは疑問です。
5索はツモ切りだったのでしょうか。

いずれにせよ、赤牌を嫌った直後、2索の振り込みを誘えている形になっているところなど、結果的に最良の状況になっているところがポイントですかね。

●12巻169ページ

上がり手は、以下の通り。上家の榎森誓子からの出上がり。ドラは七萬。
待ちちは5-8索ですが、中国麻将ルールなら5索はツモでも出上がりでも点数不足です。



- ・メイン役：大于五
- ・日本麻雀での点数：8000点（断幺、三色同順、ドラ3の5翻で満貫）
- ・中国麻将での点数（基本点）：24点（断幺、四帰一、三色三同順、大于五）

放銃した榎森がロン牌を捨てる時に「どうかな」と言っているのが、8索が危険牌の意識はあったと思われます。

しかし、既に6索が3枚見ですので、8索切りは仕方ないところだったのかも。

この捨牌を中国麻将としてみたとしても、大于五や全大はうかがえますが、これらの手を作る時にしやすい強引な捨牌（役成立上で不要になる塔子を落とす等）が見られないので、この状況で大于五の手と読むのは少々難しいかも。

その捨牌で、最終形の牌と塔子以上になるのは四萬と5筒。

四萬があった時点では の三色三歩高も見えていたのではと思います。
 の三色三歩高も見えますが、断幺になりません。

6索のポンは晒しから見て、萬子チーより先です。

どの巡目で鳴いたかは不明ですが、大于五を狙うならぜひ鳴きたいところ。

最終的に手牌にもう一枚の6索があります。既に3枚持ちの6667から鳴いたか667から鳴いたかは不明ですが、大于五狙いならどちらでも鳴くべき場面でしょう。

もっとも、6索ポンの時点で大于五に決め打ちしていたかどうかは判断が難しい。

6667から早い巡目で鳴けていたのなら、678三色三同順や、先に挙げた四萬からの三色三歩高をメイン役として狙える形だったかも知れません。

そんなわけで、今回2副露していますが、どのタイミングで鳴いたのかとか、そのときの手牌状況が判れば、もうちょっと考察できそうですが、誌面の情報だとここまでですね。

あと、郝の上がり確認できるうち、中国麻雀役として片上がり形はこれだけですね。

●12巻184～191ページ

まこが上がった局。ドラは一萬。郝はまこの和了時に聴牌をしていました。

まこがり一チした11巡目の郝の手牌と捨牌。(印刷が小さいので違っているかも)

	こままでの捨牌は、
--	-----------

まこが上がった巡目(17巡目)の郝の最終手牌。メインの役は推不倒になります。

	捨牌は、
--	------

誌面から12、13巡目の捨て牌は判りますが、それ以外では五萬を(たぶん六萬の直後に)捨てたことしか判りません。

郝の手、2索か8索で上がれば、一般高、断幺、推不倒、ツもれば不求人が付いて15点は23点オール、出上がりなら門前清の方が複合して13点は21点の手です。

また、最終形は七対の一向聴でありますね。七対になると一気に高得点です。

さて、11巡目時点の牌姿ですが、好形の一向聴です。

この時点での一番の狙いは、の三色三歩高でしょう。

6筒が入れば、のような三色三同順もあります。

8索が浮いているのですが、ここで7索が入れば、のようにして、手広い三色三歩高に発展できるので、すぐには捨てるのは避けたいところです。

少し前に捨てた八萬も坎張を嫌っている形ですが、六七八萬は、手牌状況から三色三歩高を構成しにくい順子ですので、こちらよりは利用価値があります。

11巡目の段階で推不倒への展開については、ほとんど考慮しなくて良いところでしょう。

推不倒は二向聴ではありますが、推不倒も平和+三色三歩高も8点上、平和系にして門前で両面待ちになれば日本麻雀でも和了可能になります。

実は、この8索、7索が推不倒に使えないため推不倒では使いにくい牌だったりします。

逆に言うと誌面の展開のように8索が重なるようなことがあれば、推不倒に向かうことも現実的です。逆に、先に4筒ツモでは、8索切りで三色三歩高の聴牌(七萬待ち、中段の牌例の一番上の形)になります。

さて、誌面では11巡目で下家のまこのリーチが入りました。

次順は安牌の二萬をツモ切り。

その次順は、安牌でも、筋でもない、六萬を手牌から切ってきました。

その後、五萬(これは筋)も切っており、両面塔子を落としています。

牌的には、危険牌のひとつかつ有効牌の、8索か4筒をツモってきたためと思われます。

8索ツモだとこの形 

4筒ツモだとこの形 

個人的な考えは、前のページで書いたとおり、萬子待ちの聴牌にならず、推不倒に進めやすくなる8索の方が重なったのではないかと予想します。

ただし、他家のリーチがある状況で、特に安牌でも筋でもない萬子切りで攻めてくるのはどうでしょうかね。もしかしたら、郝がこの時点で索子の2-5-8索が当たり牌と見抜いていたのかも知れません。一方、手中にあった4筒はリーチ者のまこの現物なので、ここを落とす手もあったのではないかと思います。

この後、推不倒の聴牌まで進んだところ、17巡目に上家の松森の鳴きでツモ牌がズレ、当たり牌が下家に流れる状況になりました。松森としてはもう一巡ツモがありますが、次巡で安牌をツモれば形式聴牌を持続できるので、ここは当然の鳴きの場面でしょう。

気になるのは、「形式聴牌」という言葉。待ちの3索は松森から全部見えているわけではないので、単に断幺赤ドラ1の上がる聴牌に取っている状態ですが、終局間近なのでそういう言葉にしたのかも知れません。

ちなみにこの松森の手、、3索単騎待ちで上がりにくいですが、中国麻将なら、単調将・連六・断幺・平和・三色三步高が成立する手ですね。

郝の手より中国麻将らしい手に感じましたわ。

作中にあるとおり、形式聴牌が中国麻雀になく、中国麻雀としてはに無意味な行動によって、能力が空振りになるのかも知れません。

副露の瞬間、郝の表情がアップになった点や、郝のチームメイトから「形式聴牌狙いの鳴き」でツモ順が変わりチャンスを逃したことを感じさせる台詞が出ました。

郝を含め、臨海女子の選手らはツモ牌を読めるのか、または郝の能力からツモが濃厚であると感じていたところなののでしょうか。かなり恐ろしい能力ですね。

●12巻194ページ


上がり手は、以下の通り。下家の染谷まこからの出上がりでした。ドラは不明。
五萬を残し、単騎待ちにすることで強引に三色三歩高と全帯五を確定させています。



- ・メイン役: 全帯五
- ・日本麻雀での点数: 5800点 (親の断幺ドラ2、30符3翻)
- ・中国麻将での点数 (基本点): 25点 (単調将、四帰一、三色三歩高、全帯五)

待ちが多い7索を残した場合、4-6-7索待ちになり、3面待ちです。ただし、中国麻将役の高い役が確定でなくなります。

4索なら、: 断幺、喜相逢、四帰一

6索なら、: 一般高、平和、四帰一、三色三歩高、全帯五

7索なら、: 断幺、四帰一、三色三歩高

となります。

4索ならツモっても6点止まり。出上がりなら5点で、中国麻将では和了できません。
「高めなら中国麻将的上がり条件」というなら、先の大于五の手がそうでしたが、聴牌選択で中国麻将的に上られる役を確定できるならそちらを優先する感じでしょうか。

なお、一番点数が高くなるのは、五萬を切り6索で上がった場合で、ツモ上がりなら28点、出上がりなら27点の手でになります。

今回の聴牌選択は悩ましいですね。

中国麻将的には、ツモが有利なので、3面待ち中2面で条件をクリアできるため、7索残しも有力です。これが中国麻将ならフリテンがないので、4索ツモでもツモ切りし、高めで出上がり可能なのですが…。

一方、五萬を残すことで、五萬にくっつきがあると全帯五の聴牌を維持したまま聴牌形を変化させやすいというのがありますね。四萬、六萬をツモれば両面待ちへの変化もあります。

残念ながら、コミックスでは中堅戦の後半の描画者丸々カットされたため、郝の手牌が確認できるのはここまでになります。

もう少し見たかったですね、今後も出番があるかも知れません。そのときに期待です。

● 郝慧宇の打ち方について考察まとめ

まずは、上がり形(聴牌形)を一通り。赤牌の印は省略。括弧は6点以上の役。

すでに書いてきたとおり、手牌と捨牌を見る限り、手なりで聴牌に手を進めていくと、自然と中国麻将役が手牌に含まれるような印象です。

そのため、中国麻将をプレイしているときになりやすい、「聴牌や牌効率よりも役を狙いに行くスタイル」になっていませんでした。

強いて上げれば、推不倒を聴牌したときに萬子の両面塔子を落とすくらいでしょうか。

予想ではありますが、他の咲-Saki-の作中キャラの能力的なものからして、郝の能力は中国麻将役を和了することにより、手が中国麻将役を含んだ形に偏るようなものと考えられます。

最初の一色三步高は、そのような能力モードに入るための上がりだったのかも。

もう一点気になったところとしては、140ページで椛森が、「留学生(郝)は2回戦と同じように防衛重視で…」とありましたが、他家が攻めている場合はノーテンを気にせず守ということなのでしょう。中国麻将はルールの上攻めないと勝てないので(振らなくても他家に上がられたら点が減る)、あまりそのような印象にならないと思いますが。

さて、作中には中国麻将役は出てきましたが、中国麻将の特徴である、フリテン無し、全不靠などの特殊な牌形等が出てきてないので、次回以降があれば、このあたりを使ってくれたらうれしいなと思います。

例えば、第一ツモで七星不靠の和了形を九種九牌で流して能力を萎ませる展開、順子役で中国麻将役が成立しない方を見逃して同順フリテンで見逃しになる展開、いろいろあります。

もっとうまくルールを使えば(私が読む上で)面白い展開も可能だと思いますので、期待したいところです。次の出番があればですが。

奥付	『国際公式ルール麻雀(国際麻将・中国麻将)解説』おまけ本 咲-Saki- 12巻 の郝慧宇の手を考察してみる
発行	2014年12月29日(コミックマーケット87)
発行者	まいさんの日記
作成	まいさん(maisan@saku2.com)
Twitter	@maisana_t
WEBサイト	http://d.hatena.ne.jp/maisana/ http://www.green.dti.ne.jp/maisana/